
素庵日記

春野一人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素庵日記

【Nコード】

N5504X

【作者名】

春野一人

【あらすじ】

春野一人（素庵）の日記 つれづれなるままに、日々の良からぬ事を書きしるせり。一種のゴミ箱、パンドラの箱。悪臭あり、要注意！

11年10月13日

2011年10月13日 木曜日 それでも、暑い日がたまにある。昨晚、日本テレビ、夕方のニュース番組「エブリー」に、素庵め登場。信州妻恋の高原のキャベツ畑で、わが恐妻に愛を叫ぶという、おぞましい画面が繰り広げられました。素庵、ちょっと太めだが、わが愚妻の友、曰く「かつこいいじゃん」に愚かな素庵、たちまち気を良くする。しかし醜態が展開するのではという思いで緊張したのであるうか、疲れ果て、お子様就寝時間の午後八時に寝てしまった・・・。

さて、カルカヤの歌を書き終えたあと素庵こと春野一人は毎日酒に溺れ、女を追いかけ回し・・・と、言うことでもなく、次作は歴史小説の予定なので、あらずじ、登場人物、時代のイメージを、下手な字でノートに書き散らしているところなのであります。必ずや近々に、再登場しますので、乞うご期待！

先日は、映画、「猿の惑星・創世記」を見ました。前作「猿の惑星」「続猿の惑星」は名作でしたが、今度の新作も見応えのあるものでしたな。

11年10月14日（金） 晴

10月14日 厚生労働省は10月11日の社会保障審議会（厚生相の諮問機関）の年金部会で三つの案を提示した。厚生省は年内に改革案を取りまとめる予定だという。三つの案と言うのは、？厚生年金の支給開始年齢を3年に1歳ずつ引き上げるというスケジュールを「2年に1歳ずつ」に前倒しして、65歳に引き上げる。？厚生年金を65歳まで引き上げた後、基礎年金も支給開始年齢を3年に1度引き上げて、最終的には68歳支給開始とする。？2年に1歳ずつまえ引き上げを早め、さらに2年に1歳ずつ引き上げて、基礎部分も含め68歳支給開始とする。

これに先立つ、六月の民主党の社会保障に関する論議では70歳までの引き上げに言及した論もあったと言っ！

こうした正に逃げ水といわれる、詐欺まがいのことが、いとも易々行われる事に素庵は怒りを感じる。

こんな事では、年金に対する国民の信頼は低下する一方ではなからうか。財源が足りないと言っことで、このような論が、慎重な国民的議論もなく発表されて良いものであるうか。やはり民主党もだめだ。

10月15日（土） 小雨

久々の雨模様。震災による原発の駆動停止により、妻の仕事が日産関係のため、土・日出勤になっていた。それで私の土・日の休日とあわず、夫婦すれ違い休日となってしまうていた。十月に入り、やっとその魔法も解けて、仲良く（！）休日が一緒になった。

二人連れだつての遠出も三ヶ月なかつたので、今日は日帰り温泉行である。常磐道・谷和原ICより車で10分の「きぬの湯」が目指す場所である。入浴料は土・日1200円（回数券利用で千円）。源泉かけ流しので塩化物質泉・36・6度・毎分229L・、黄色を帯びた透明な泉質は東北に多い、非常に和む香りを持っていて良いグレードである。東京から車で30分で、この良質な温泉に出会える事は貴重と言える。施設も広々と綺麗で、妻はボディケア・足マッサージ込み一時間6000円で

強固な疲れが抜けたと満足のようす。えびす生ビールは香り高く・こだわりの料理も旨く・ボリューム・お値段は納得のもの。又、嬉しい充実した産地直売コーナーもある。周辺は筑波エクスプレスによつてできた新造の住宅が散在して、若干郊外の住宅地という感じだが、広々とした感じは消えていない。駐車場は230台と余裕があるが、電車で行くなら常磐線&筑波エクスプレス守谷駅から要予約で送迎バスがあるそうだ。電話は0297-20-3751である。

10月18日(火)

10月18日(火)日曜日、例によって「ちい散歩」をする予定だったが、なんと30度近い、真夏日。なまくら素庵は、さつさと戦線を撤退し、シネコンに逃げ込んだ。シネコンで目についた「ツレがうつになりまして」を見ることにした。この作品は細川貂々《ほそかわてんてん》の原作で、これは鬱病になった夫、望月昭さんとの闘病記をイラスト付で描いて2006年にベストセラーとなった幻冬舎刊「ツレがうつになりまして」の映画化だという。監督は人情劇に定評がある佐々部清。暗い話なのかと思ったが、タイトルのおかしさを裏切らず、暖かい映画に仕上がっていた。この映画には忘れられない良い言葉がたくさん転がっていて春野一人のペンネームで作品を書いている素庵に切り込んでくる言葉があった。売れない漫画家である、ツレの妻は、職場の親しい上司にこう言われる「あなたは、あんたが書いている作品が本当に面白いと書いて書いているかね? そのよう漫画が人を引きつけると思いませんか?」そこでツレの妻は書くべき作品のヒントを得るのである。素庵も突然春野になって、そうだそうだとこのシーンにうなずいてしまったのである。結論、この映画は過酷な企業社会の荒野に咲く、癒しの美しい花である。

10月19日(水)

仕事の後、午後六時過ぎ、市立図書館に日本書紀と白村江を扱った2冊の本を返した。読むのに時間がかかったので、返却期限を過ぎてしまった。さて、今度は「日本書紀は独立宣言書だったー明かされた建国の謎ー」 山科誠著 昭和20年 金沢市生まれ 慶大経済学部卒 昭和42年小学館販売を経て昭和44年バンダイ入社 昭和55年同社代表取締役就任。角川書店平成八年刊。二冊目は、吉川弘館・・・いつも資料としてお世話になりますなあ、現代語訳吾妻鏡は良かった！・・・ 歴史ライブラリー229の「古事記のひみつ・歴史書の成立」平成十九年刊 三浦佑之すけゆき(昭和21年三重県生まれ。昭和50年千葉大学院人文社会科学科教授。著書に口語訳古事記・万葉びとの「家族」誌・等。三冊目は「日本書紀のすべて」 新人物往来社平成3年刊 武光誠著(本に著者略歴なし。素庵調べ・1950年生まれ・日本史学者、明治学院大学教授。山口県生まれ。東大大学院国史学専攻、1980年明治学院大学に勤務。2008年東大博士課程を修了「古代太政官制の研究」で文学博士、明学大教養教育センター教授となった。およそ200冊の著書があり、研究者として知られている)

まさに、さまざまな人が古代史の解明に取り組んでいるのだなあと思う。素庵も虎の威を借る狐として、のこのこ行って行くことにしよう。

そのほか、日本書紀の研究書である「釈日本紀」「日本書紀私記」を予約して帰宅した。夕飯は、ブリの煮付け、なめこ味噌汁、レタスのサラダ、発泡酒350ml1缶である。

10月20日(木)

東京は20日から突然冷え込んだ。山の神に、ブレザーを着て行けと言われていたが、素庵、南方系なのに(本当にそうであるうか・母の父は富山の百姓の末っ子であったから、神田のテーラーに丁稚として上京した人で、私の性格、体質は、その祖父に似ているらしい。これでは、むしろ出雲に多い、新羅系統の血を受けているかもしれない・・・だから北方系なのかも知れない。父方は鎌倉時代から川崎の多摩川に面した幕府の重要な城があったところに居を構えた一族のようで、鎌倉幕府を盛り立てた稲毛氏臣下の関東武士団の一派であったと思われる。しかもチジレ毛で鼻がでかいアロハ民族のようであるから、黒潮に縁のある血筋ではなからうか。父、母の母についてはともに不詳である(寒さには強い。シャツの上に、ポロを着ただけで一日すごした。仕事の他は、歴史書・歴史書に埋もれている。新しい話のためのあらすじもまだ、まとまっていない。日本書紀と古事記の並立というミステリーを追いかけている段階であるからだ。この謎が解けないと話が始まらないのである。(書く小説については謎のままに残しておこう)

10月21日(金) 雨

今日は朝から雨である。図書館から借りてきた歴史本三冊にやつと目を通し終えた。三冊中、取るべき著作は「古事記のひみつ」^{みつひ・すけみき}三浦佑之著 吉川弘文館刊であった。真摯に古事記と日本書紀を比べ、独断に入り込まず、よくあるトンデモ本にならず、まさに「古事記」を分析した優れた著作と思えた。「日本書紀は独立宣言書だった」 山科誠著は、すごい独断で、推論の進め方には優れたところが見えるが、なにしろ独断が多すぎて、ほとんどトンデモ本化している。参考にはならないと思えた。「日本書紀のすべて」 武光誠編 新人物往来社刊は、いわば広く浅くの本、十人の人達による、日本史入門書といったところだ。竹光氏の担当はわずか20ページあまり、「日本書紀と古事記も同時期に並立しているが、古事記も朝廷に必要な書であった」と簡単に片付けられてしまっている。200冊に及ぶ著作がある学会では著名な先生であるらしいが、首を傾げてしまう研究態度ではなからうか。

さて「古事記のひみつ」により、素庵の愚鈍な頭も整理されて、少し前に進むことができた。三冊の本の前に借りてきた本の名を記さなかったが、その一冊は「日本書紀の謎を解く・述作者は誰か」^{もり・ひろみち}森博達(1949年兵庫県生まれ、大阪外国語大学中国学科卒。名古屋大学大学院博士課程(中国文学専攻)中退。愛知大学専任講師、同志社大学助教授、大阪外国語大学助教授を経て、1999年に京都産業大学教授)は日本書紀に用いられている言葉によって、著述者を推理する方法を採っている。それによって、書記の各巻が中国人の手によるものか、日本人によるものかを、見事に分析している。小耳にはさんだ話によると、この著は名作で知られているということである。

このようにして、謎は徐々に明らかにされてきているが、道は未

だ遙かに遠い。素庵が日本古代に強く惹かれるのは、謎が多いからである。さらに日本書紀が謎かけ問答をしかけてくるから余計面白いのである。・・・今は古い小説になってしまったが「成吉思汗じんぎすかんの秘密」たかぎあきみつ 高木彬光著 昭和35年 光文社刊 は、歴史マニアには心躍る名作であった。なにしろ源義経が元初代皇帝ジンギスカンであると言うことを、入院中で閑な東大法医学助教授が論証するという話であり、その論証が、若き素庵にはたまらなく面白かった。この土日はこれを再読したいと思っている。

高木彬光 1920年青森市生まれ1955年没の推理小説作家。四代続く医者の家系。東大進学に失敗、京都帝大工学部冶金学科卒業。一高在学中、家は破産して一家離散、親族の援助で学業を続けた。京都大学卒業後、中島飛行機に就職したが太平洋戦争終結で失職。1947年骨相占師の勧めにより小説家をめざす。できあがった「刺青殺人事件」が江戸川乱歩に認められ、1948年出版。代表作に「能面殺人事件」（1950年、第三回探偵作家クラブ賞）、「わが一高時代の犯罪」「人形は何故殺される」「白昼の死角」「破戒裁判」

氏の歴史ミステリー「邪馬台国の秘密」「古代天皇の秘密」は、いずれも入院中の教授が謎にいとむという小説である。こうした推理小説の書き方は、ジョセフィン・テイの「時の娘」（1951年）が原型で、病院のベッドで動けない探偵が限られた情報で推理する話とあるので「ベッド・デイテイテクタイプ」とよばれている。

氏はかなりユニークな人で、易、占いを信じていて、手相の本として「手相占い」昭和56年角川文庫がある。また大学で学んだ冶金の知識を生かして、秋田で鉱山の発掘に熱中したという（鉱山士の事を山師とも言うね！笑い）。この手相の本は、素庵も愛読したが、今日の日まで氏の著作と知らなかった！似た名前であるなどは思っていたのだが・・・（苦笑）。

10月22日(土) 雨のち晴

今日は、「ちい散歩」いりやかいわい入谷界限に従って散歩すべく昼前にJR上野駅に降り立った。しかし外に出てみると、降りしきる雨。意気地のない素庵夫妻であるから、早速、計画撤回。上野駅で昼食ということになったが、あいにくほどよい食事どころ見つけれず、東京駅に行こうと言うことになった。そして東京駅は構内北側の「キツチンストリート」(食事どころが集まっている)の明石たこ焼き店「にしむら日和」ひよりに入り込んだ。お通し200円×2オム焼きそば1000円×1・明太チーズ餅、お好み焼1000円×1・明石たこ焼き950円×1・麒麟瓶ビール・梅酒ソーダ割り・明石鯛(清酒)1合弱×1・漬け物、ぬか床30年もの550円×1を食べる。家に帰ってネットでの店の評判はかんばしいものではなかったが、お新香は絶品!日本酒明石鯛(たぶん純米酒、今度行ったら聞いてみたい)が薄く黄色みかかった、濃厚な江戸時代的な良い酒、焼きそば、お好み焼も非常に美味しかった。二人はカウンターの前で勝手なオダをあげたが、焼手の60代と思われる、下町風おばさんも、おじさんも、ほどよい客あしらいで心地よく酔うことができたのであった。鯨焼とかキノコ五種焼とか煮こごりなど旨そうなおつまみもある。銀座店もあるというので今度行ってみようと思う。さて、読んでいる「成吉思汗の秘密」大変面白い。日本国史大系8(日本書紀私記・釈日本紀・日本逸史)B5サイズで厚さ10センチで全て漢字!を借りてきた。鋭意解読しなくては!(汗)

10月23日(日) 暑

朝方三時に目が覚めて、七時までに「成吉思汗の秘密」を読み切った。義経が成吉思汗になったという大胆な設定ながら、考証を見事に固めている。まさに、こうした質の高い考証は近頃のトンデモ本の作家の遠く及ばないところである。主人公の神津がマルコポーロの「東方見聞録」の書中に気になる記述があることを以下のように紹介している。

元の皇帝フビライが成吉思汗から聞いた話としてマルコポーロに伝えた。

成吉思汗が若い頃、ある合戦に敗北して、ただ一人フクロウが住む古い大木の空洞に逃れた。そこへ敵兵が追撃してきて、洞窟に入ろうとした兵を、成吉思汗に心を寄せる敵の重臣が、「ここには人間はおらんフクロウがおるだけだ」と押し留めた。それで彼は九死に一生をえて助かった。

この話は、平家追討に立ち上がった源頼朝の小田原、石橋山での苦戦の経験とそっくりである(鎌倉正史・吾妻鏡に書かれている)それが「東方見聞録」に載っていることは実に不思議としか言いようがない。(素庵は石橋山古戦場に行ったことがある!伊豆の海から急に立ち上がったミカン山といった所である)このような驚くべき史実を「成吉思汗の秘密」は数多く捜して題材に持ってくるのは作者の努力のたまものなのである。これはただの、トンデモ本とは違う、歴史研究本とさえ言える優れた本なのである。・・・「東方見聞録」を早速手に入れて、この部分たしかめてみたい。

十時過ぎ、家を出て、「ちい散歩」本郷界隈を歩いてみる。何で

も夏日とか、暑い。東大生協の食堂で、昼食。素庵は中華丼400円、恐妻は五目寿司と天ぷら・鯖焼さわらき物のセット、550円。味、ポリウムとも納得の品だった。・・・しかし東大の施設は実にボロである、日本国の指折りの大学がこのような有様であるのは実に嘆かわしい。一千兆円の借金が、このような所に影を投じているだ！・・・

それはさておき、街歩きは身体を鍛え、かつ余分に楽しめる、ちい散歩は良い。このあたり傾いた古民家、味のある、木造の下宿屋などあり、なかなか良い。また和菓子老舗、古本屋なども多く楽しい。

10月26日(水) 秋寒 晴

先晩は、素庵の関係する韓国居酒屋「O」の開店祝いで、午後6時ころより飲み始め、午前様となり我が家に帰還。そのため一日二日酔いに悩まされた。ただボウとして、本も読む気力もパソコンにさわる意欲もうせてしまって、もう酒はやめようと固く決意した。しかし今日になると、酒はほどほどにすべきだと思っっていることが変わってしまった。まさに素庵のだらしなさがもるに出てしまっている。こんな時は「相田みつお」の言葉ではないが「人間だもの」と、うそぶいていよう。

さて、図書館から借りてきた資料「日本書紀私記」「釈日本紀」「日本逸史」が、今手元にある。吉川弘文館発行、平成11年、新訂増補「国史大系」に前記三書が一緒に記載されている。素庵の調べによると、これらの書について、現代語訳といったような解釈本はないようだ。したがって全文、漢字の原書だけが、この無学な素庵の前に所在なげに転がっている有様である。吉川弘文館に恥ずかし気もなく、電話して、「もっと易しい本はないか」などと聞いてみようと思っっている。吾妻鏡などは良い現代語訳を出してくれている出版社だから、庶民の味方であるはずだが・・・。

さて、この本の他に、先日のニュース・エブリイの出場のお礼に頂いた、日テレマーク入り図書カード500円4枚で新刊小説「下町ロケット」池井戸順著とアマゾンで買った、例の「ベッド探偵」元祖・ジョセフィン・テイの「時の娘」が目の前に転がっている。

下町ロケットは、その題名からすると、下町の工場の親父が出てきて、おんぼろい人工衛星でも飛ばす話かと思っっていたが、イメージとおもいきり違う話である。しかしながら、非常にドラマチックな内容で面白い。素庵は小説のストーリーを話す奴が大嫌いで、今はなき淀川長治のテレビコメントなどは声を消して見ていた者で

あるから、ここでは、ストーリーを書くことは、控える。

10月27日(木)

「日本書紀私記」「釈日本紀」の注釈本・現代語訳は存在しないというのが、目下の素庵の結論である。厚かましいことに吉川弘文館に電話して聞いた話でもある。したがって、目の前には漢文の壁がそそり立っている。(汗)。魏志、後漢書なども文庫本になっているのは、倭国に関連した記事を取り出した、いわゆる倭人伝と読んでいるダイジェスト版のみに限られている。言うまでもないことだが、古代の日本をめぐる状況は、倭人伝だけでは決して理解はできない。

すでに、出版社の未来は陰り始めているが、ここであえて言わして貰えば、従来の出版界がひどく安易な土俵で勝負してきたということである。(ネット上にも、これらの現代語訳は存在しないように思える。どなたか取り組む人はいないだろうか)

こうした状況が、現在の歴史トンドेम本の跋扈はつこうを許していると言えよう。・・・さて、こうぶつぶつ言っている間にも、図書館から「東方見聞録」二冊用意できたと、メールが入った。土日は、那須にモミジ狩りに(風雅なことばだねえ)出かけるから熟読はむりだろうが、楽しみである。「時の娘」「下町ロケット」は、ただ今読書中。素庵は熱烈ながらいい加減なSF好きであるから、いずれ「リングワールド」「宇宙のランデブー」「夏の扉」などなどについてご託を並べるつもり。

10月30日(日)

東方見聞録を図書館から借り、隅々まで目を通すが、「ジンギスカンが逃れて樹のほこらに隠れていると敵将が助けた」というエピソードを見つけた。それで、この件に関しては、しばし判断中止。もう少し東方見聞録を読んでみようと思う。

さて、土日にかけて素庵は那須方面にモミジ狩り挙行。土曜は、比較的那須に近い大内宿おうちじゆく目指して車で進むが山中を通る道は三月の震災のために、至る所道が崩れており、いまだ通行不能という状態である。このため、大迂回で進み、大内宿に着いたのは昼になってしまった。(けれども細かい迂回の山道は紅葉が見事であった)

大内宿は江戸時代、会津若松と日光を繋ぐ会津西街道の宿場として設けられ、発展した町だ。会津藩・新発田藩・村上藩・米沢藩の参勤交代や米の運送に多く用いられたと言うことだ。明治に至って参勤交代もなされなくなり、寂れたが、寂れたことで、昔のままの宿場町が新築もされず昭和まで、相当残されていた。昭和56年(1981年)、木曾の妻籠宿、奈良井宿に続いて、全国第三番目に重要伝統的建造物群保存地区として設定されたのだ。

現在は、街道の両側におよそ70軒の藁葺きなどの商店が軒を連ねていて、往復700?の往還を楽しめる。街道はアスファルト舗装されておらず、道の両側には清らかな二尺(60?)ほどの清らかな用水が流れている。そこでラムネやビールやトマトやリンゴが冷やされていた。素庵一行(素庵、愚妻、愚息)は街道の外れの小山から、美しい町並みを眺めた後、名物、一本ネギを箸にして頂くおいしいネギそばと、そばがき、あんこもち、地酒などに満足。宿場の周りの山々は紅葉し、休耕田のスキは陽を受けて白く波をうつておったぞ。愚息は素庵から略奪したキャノンキッス一眼デジカメで風景を撮りまくっておった。素庵は地酒「特別純米酒大内宿」四合瓶二本・計三千円也を土産とす。福島県内ここは震災で観光

客がまばらと聞いていたが、この日は大勢の人で賑わっていて、元気で良かった良かった。宿泊は那須のホテル・ラフォーレで、健保組合の補助があつて、一泊二食八千円と格安、設備豪華、食事よし、湯は硫黄泉（震災以後泉質が濃くなったという！）良しで満足。ただし翌日の予定、今年四月より公開されたご用邸の一部、「平成の森」行きは駐車場が七十台のため、待つことになり、帰路を急ぐ、我々は、予定を変更、那須茶臼岳見物に切り替えたのであつた。

10月31日(月)

「下町ロケット」読了。今、企業がかかえる問題が、面白さの中ににじみ出している小説であると思った。作者 池井戸潤いけいど・じゅん氏は1963年岐阜県生まれ。慶応義塾大学卒業後、三菱銀行入行、95年退職。98年「果つる底なき」で第44回江戸川乱歩賞を受賞し小説家デビュー。10年「鉄の骨」で吉川英治文学新人賞を受賞。他の著書に大藪春彦賞候補になった、「BT'63」「最終退行」、直木賞候補の「空飛ぶタイヤ」、山本周五郎賞候補の「俺たち花のバブル組」など。「下町ロケット」で第145回直木賞受賞した。このように注目作を多作している氏は今後も期待できる大型作家と言っべきだろう。素庵の楽しみが一つ増えたのである。

先日なくなった、アップル社のスティーブ・ジョブズ氏の伝記が発売されたが、これなどは「下町ロケット」のドキュメント版ともいっべき面白さが予感できて、今、読みたい一冊である。

アマゾンより「元朝秘史・チンギスハン実録」届く。春野一人の日本書紀の謎に関する小説は「ベッド・デイクタイプ」の形を取ろうかななどとうっすら思っている今日この頃である。夜は恒例の会社の月末打ち上げ。たまたま社長の前の席ということで、社長と話しこむ。社長は大学時代はフランス語科と言っこと、素庵も、もとはちやちな会社の社長と言っことで、経営の話、小説の話と、楽しい一時を過ごした。

読了の「下町ロケット」は、社長に進呈しようか。ここは浜松町駅もよりの魚料理の店(店名忘れました)であるが料理は「豚シャブ・野菜」で、なかなか捨てがたい味でありました。この例会は2時間飲み放題、費用会社もちの、いやしい貧乏素庵、狂喜の内容なのであります。素庵はビールの後、冷酒一本で深酒なしの素庵にはめずらしい良い酒でありました。

11月2日(水)

昨日は、「小説家になろう」さんの、ネットの具合が悪かったよ
うで、アクセスできない事をいいわけに、日記を書かずじまいにし
てしまった。さて、手に入れた「元朝秘史・チンギスハン実録」(中
中公新書・岩村忍著・1963年初版)に、例の梶原景時かしわら・かげとき(相模の
国の梶原郷の領主)が敵でありながら洞窟に隠れる源頼朝をかばっ
た話と良く似た話を発見した。

テムジン(のちの成吉思汗)は敵から逃れて、林の中に逃げ込ん
だ。(この頃はテムジンがようやく頭角を現してきた頃であった)
九日目に食物もつきて森から出たところを待ちかまえていた敵の夕
イチウト族に捕らえられてしまった。イチウト族を率いている夕
ルフダイ・キリルトクはテムジンを捕らえて帰ると、部落から部落
へと引き回した。時は夏の初めの旧暦四月十六日の暖かい日であっ
たから、イチウト族のものはオノン河の岸で宴を催し、暗くなる
と、みな帰って行ってしまった。テムジンは酒宴の間、子供の番人
に見張られていたが、族の者達が帰った所を見計らって手枷てかせを子供
の手からもぎ取って、子供の頭を一打ちし再び林に逃げ込んでしま
った。テムジンは見つけられる恐れがあるので、河の水たまりに上
向きに横たわり手枷を水に流れるままにして、顔だけを水面に出し
ていた。子供が「逃げたぞ」と叫んだので、イチウト達は満月の
明るい光の下の、林の中を探し回った。スルドス氏のソルハン・シ
ラはテムジンが隠れているのを発見したが、「おまえが優れた者な
のでイチウト達は妬んでいるのだ。そのまま隠れているが良い。
私は知らせたりはせぬ」と告げて立ち去った。イチウト達は一時
はあきらめて引き返していったが、また引き返してきて捜そうと言
い出したので、ソルハン・シラは「真昼でも逃げられてしまったの
に、今、この暗くなった夜に見つかるはずがない。まだ捜してない

所を捜して今日は打ち切りにし、明日また捜そう」と言った。

あきれぬくらい、話しの細部が「吾妻鏡」に良く似た話である。まさか義経がジンギスカンになったと、それはいくら何でも、すぎる話であるが、ジンギスカンが、部族をまとめていった様子も、頼朝の立ち上げと似ていて、背筋がゾクゾクするのである。又、日本ではジンギスカンと呼んでいるが、原典では「チンギス・ハガン」であると中公新書版の著者である岩村氏は後書きに書いておられる。(氏は義経〃ジンギスカン論者などでは全然なく。原典について言及されているだけなのだ)チンギス判官?これは素庵の考えすぎであろうか。判官とは義経の代名詞である。ちなみに「ハガン」は元国においては王につく敬称なのである。・・・どうやら「トンデモ素庵」と言われそうだからこころへんで退散しよう。今日の晩ご飯はブリの照り焼き。切り干し煮物。ゴボウのきんぴら。茹漬け物。御飯軽く二膳。酒抜き。一昨日は会社の打ち上げ。昨晚は「寿司常しゅうね」(東京を中心とした中級寿司チェーン店)で酒と、飲み過ぎだ。昼はナチュラルローソンの店内キッチンで作った、メンチバーガーに冷茶缶であった。

11月4日(金) 晴

昨日は、文化の日で休日。早朝より「ベッド・デテクティブ・ストーリー」(しかし、この言葉は、和製英語だそう。アームチェアー・デテクティブが正式な呼び名であるという)の元祖と言われるジョセフィン・テイの「時の娘」を読んでいた。英国王リチャード三世は、王位に即くために、兄の幼い王子を塔に閉じこめて殺した極悪非道な王として知られているが、彼の肖像画を見た、入院中のグラント警部は

その肖像画が示している優しさに疑問を感じて、考証をはじめるという話である。この話のパターンが、「成吉思汗の秘密」で用いられている訳なのだが、この手法は、あまり用いられてないのである(一番積極的だったのは「成吉思汗の秘密」の作者、高木彬光氏^{たかぎあきみつ}だった)。素庵、この手法を用いて、数々の歴史小説連作の創作にとりかかりたいと思うこの頃である。高木氏はこのパターンで書いた小説「邪馬台国の秘密」「古代天皇の秘密」があるが、これらはアマゾンで送料込みで300円程度で手に入るので、早速注文した。そのほか「ダ・ヴィンチ・コード」(著者タン・ブラウン。全世界で七千万部、日本で一千万部を突破した!2006年映画化。しかし素庵思うに、これはトンデモ本の最たるものであると思うのだが未読で、はつきりしたことは言えない)

そのあと素庵、自転車で床屋(1600円)に行き、それから要介護3の認知症の母のいるリハビリ施設にも回ってきた。午後からは夕食の買い物。出戻り男の長男の分も含めて三人分の準備である。メニューは牛ステーキ・鯛のカルパッチョ・サラダ・キムチ・サザエの壺焼である。

四日は仕事。以前肉の配達で知っている、東日本橋の肉屋兼弁当屋の遠藤商店で夕食の弁当500円を三食求める。昼時は近所のサラリーマンが列を成す、人気店である。大盛りの御飯に五品のポリ

ユームあるおかずが三十種の中から選べるのである。素庵はメンチカツ・ハンバーグ・マーボ豆腐・キンピラそれに必ずつく白菜のお新香を選んだ。夕食時このほかにトウモロコシ醤油バター炒め、トマトサラダを添える。・・・この日も「時の娘」を読んでいる。仕事で新木場に行くが、貨物船が停泊する港にススキの群れが銀穂を光らせて良き秋の風情であった。

11月5日(土) 秋ながら暑

息子が、素庵のフィルム中型カメラの名機「ハッセルブラッド」を使うというので、使い方を教えて渡したが、結局シャッターが落ちないという事になり、素庵にも原因がわからない。「ハッセルブラッド」は、言うなればカメラのスーパーカーのようなものであるから、致し方がない。これに比べれば現在のデジカメ一眼は、まさに日本車の良さを引き継いだ、無故障の権化と言えよう。「ハッセルブラッド」を修理に持ち込めば、安くとも五万円はくだらないから貧乏素庵には手も足も出ない。ここは、「こりゃだめだ」と言つて、カメラをほったらかしにするしかないのである。これに比べれば、もう一台持っている二眼中型カメラ、国産のマミヤC200はトラブルもなく扱いやすい。しかし「ハッセルブラッド」のレンズはかのドイツ製「ツアイス」であり、取れる映像は、フィルムにしてデジタルで言えば3万画素はあると思われるので惜しい。

さて今日は、鎌倉の御成通りの老舗酒店「高崎屋」さんに頼んであった、秋田の名酒「純米吟醸新政」^{あいまさ}4合瓶2千円なり1本を求めに行く。新政酒造発祥の六合酵母による酒を生酒でいただくような美味であろうか、いまだ栓を切っておらず、楽しみな素庵である。ついで甲府のボジョレーとも言うべき、マスカットベリー種を用いた中央葡萄酒株式会社(グレイスワインで知られている)のセレナ赤ワインを1500円も勧められるままに求めた。おりしも北鎌倉駅前の北鎌倉古民家ミュージアムにて童の愛くるしい人形で知られる栗野敦子創作人形展500円に入り、その可愛さ、懐かしさを堪能した。このミュージアムの庭もなかなかの風情ある良い庭である。その後、小町通りの甘味どころ「納言」と「天むす屋」両店に立ち寄り満腹。どちらも名店なり。

さて、ベッドディテクトを検索するうち、エドガー・アラン・ポアの「モルグ街の殺人」が史上初のミステリーと知り未読なのでア

マゾンに注文を入れる。又、コナン・ドイルのシャーロック・ホームズ、シリーズの一つ「まだらの紐」も評判良いというので注文入れる。ミステリーは歴史ミステリーの父親みたいな存在と思うからである。今日「ダビンチコード」角川文庫・上・中・下、三冊入手。

11月6日(日) 曇りたまに微雨

昨夜、テレビ「アドマチック天国」は、板橋の「ハッピーロード
大山商店街」を取り上げていた。昨日放送された内容に引きずられ
て「大山詣おやまもつで」は、ちよつと恥ずかしいが、なに素庵もともとミール
ーであるから臆する所なく、参上した。この大山の地名は、この場
所がかつては、大山詣をする大山街道が通っていたからであるとい
う。近所の埼玉に抜ける国道17号(中山道)の志村の坂道には未
だに古い石の道しるべが立っていて、「ここより大山街道」と刻ま
れているという。なんでここが大山街道?と疑問の素庵であったが、
調べてみると、「大山街道」は、かつての「鎌倉街道」と同じで、
丹沢の大山に通じる多くの道を「大山街道」と呼んだとある。これ
で疑問氷解。数多くの「大山街道」のひとつなのである。もとより、
大山商店街を通る川越街道が「大山街道」ではなく、その道筋は今
は失われて不明である。

大山商店街はおよそ560?の綺麗なアーケイドに覆われた商店
街であり。アーケイドのある商店街としては全国三番目の長さを誇
る商店街だという。(一位は目黒区の武蔵小山商店街800?であ
る。)おりしも大山商店街が共同で開いている「全国ふる里ふれあ
いショップ取れたて村」では東北の最上町の皆さんが、その場で新
蕎麦を打って試食会を開いていた。ただより好きなものがない素庵
はさつそくそれを試食。新蕎麦の香り高い、腰の強いうまい蕎麦で
ありました。ここでは店頭で売っていた煮込み玉こんにゃくを買っ
た。商店街の評判の魚屋には客が群がっていたが、10きれほどの
中トロ600円、イカの塩辛を買う。良い品が安い商店街であると思
った。

さて、古事記、太安万侶に関する小説、800字ほど書く。しか
し、まだネットには流さない。少し書きためてから表示しようと思

っている。タイトルは決まらない。「ベッド・デテクティブ」小説
である。主人公は「酔いどれ詩人」田沼遼^{たぬま・りょう}である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5504x/>

素庵日記

2011年11月7日08時18分発行